

2018年2月13日

各位

医化学創薬株式会社

「GlyPAdoc™」サービス開始についてのお知らせ

医化学創薬株式会社（代表取締役社長：伊藤勝彦、札幌市）は、本日から GlyPAdoc™サービスを開始いたしますので、ここにお知らせいたします。



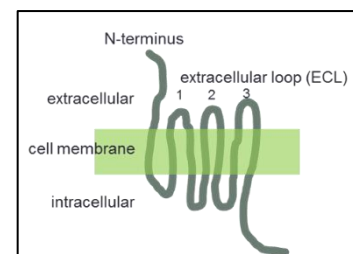
ヒトの細胞膜タンパク質には、Gタンパク質共役受容体（GPCR）やイオンチャンネル、トランスポーター、成長因子受容体などがあります。それらは医薬品ターゲットの宝庫となっています。近年、細胞膜タンパク質の90%以上に糖鎖が付加されており（翻訳後修飾）、この糖鎖修飾がタンパク質の重要な機能に関わっていることが明らかになってきました。GlyPAdoc™は、さまざまな疾患とリンクするこれらの膜タンパク質を標的とし、細胞外の糖鎖修飾部位に焦点を当てて抗原糖ペプチドをデザインしラインアップしたものです。

今回、GlyPAdoc™シリーズ第1弾として GPCR-GlyPAdoc™をご用意いたしました。GPCR-GlyPAdoc™では、14疾患領域における154種のGPCRを対象としており、それらの情報はGlyPAdoc™リストに掲載しております。今回に限り、当社が合成した抗原の権利を主張することなくご提供します。数量限定のサービスとなりますので、ぜひお早めにお問い合わせください。

[本サービスの詳細はこちら](#)

当社は、本サービスを通じて、製薬企業における抗体医薬の研究開発やアカデミアにおける研究目的での利用に寄与してまいりたいと考えております。

GPCRは7回膜貫通型の構造を有する受容体です。生体内に約800種類の存在が知られており、現在市販されている低分子医薬品の40%程度は約60個のGPCRが標的となっていますが、抗体医薬で市販されたものは未だ少数に過ぎません。抗原として良いものを得るのが難しいことが要因の1つとなっています。GPCRの9割程度は糖鎖修飾を受け、細胞外のN-末端と細胞外ループ（ECL-1, -2, -3）[右図]の一定部位1~30ヶ所が主にN-結合型糖鎖で修飾されGPCRの機能に関わっています。GlyPAdoc™の糖ペプチドは、これらの糖修飾部位の配列（10アミノ酸程度）と各種N結合型糖鎖の組合せから構成し、抗原用の糖ペプチドとしてデザインしたものです。



【医化学創薬株式会社について】

2010年、先端的な糖鎖研究をサポートするとともに、新たな医療を待ち望む人々に役に立つ抗体医薬品を創製することを目的として設立されました。

糖鎖解析・合成を中心とした総合的糖鎖技術GT-Platform™を確立し、これをベースに抗体医薬品創薬システムQuaDRAD™を完成させました。これらの技術・システムを基盤にして受託サービス及び創薬事業を展開し、糖鎖及び創薬の研究をサポートするとともに、さまざまな疾患領域の抗体医薬品を継続的に提供し、医療と健康に貢献したいと考えています。

お問い合わせ先

医化学創薬株式会社 事業推進部
〒060-0009 札幌市中央区北9条西15丁目28番地196 札幌ITフロントビル3F
E-Mail : mcp@soyaku.co.jp URL : <https://soyaku.co.jp/>